富山市総合計画審議会「第３回 調整部会」
議事録

日時：平成 28 年 11 月 16 日（水）10:00 から 11:20
場所：富山市役所　802 会議室
出席者：（順不同）

髙木繁雄	富山商工会議所会頭（部会長）
神川康子	富山大学理事・副学長
長尾治明	富山国際大学現代社会学部現代社会学科・教授
中村和之	富山大学経済学部学部長・教授
宮口侗廸	早稲田大学教育・総合科学学術院教授・文学博士
宮田伸朗	富山国際学園・学事顧問

企画管理部　本田部長、西田次長、中田次長、前田参事、井村主幹
財務部次長、福祉保健部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、
農林水産部次長、都市整備部次長、建設部次長、市民病院事務局次長、上下水道局次長、
議会事務局次長、教育次長、消防局次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事

・第 2 次富山市総合計画前期基本計画（案）の答申（案）について

委員

子育て・福祉関連などさまざまな計画があるが、総合計画としては総括的な書きぶりになる。審議の中で出てきたふるさと教育などの意見が反映されているので、最終ではこれでよい。今後は、市民の理解や信頼、協働意識をどうつなげていくかが課題になる。

委員

コンパクトなまちづくりのなかで、中心部と中山間地のバランス、中山間地においてコンパクト意識をどう引き継いでいくかという議論が 2 回目に出されており、その部分が修正されている。

「市民に期待する役割」の表記の市民の中には、住民という市民もいれば企業という市民もいる。市民のタイプによってどのような期待が寄せられているか、もう少し読み手の立場でわかるようにするべきではないか。

内容については、2 回しっかりとつめられたのではないかと思う。

委員

中山間地域と中心市街地の関係性を含めた富山市が持っている多様性をどう表現していくか、それを反映してもらっているので、これでよいと思う。

全体として、答申案を見て思ったことだが、我々の部会ではシビックプライドやブランティング、シティプロモーションという今までなかった新しい言葉がでてきた。こういう概念で全体をくくることもできる。地域や郷土への愛着という言葉も出てきた。この 3 つの概念をキーワードとして、今後政策を進めていくことが大切である。

委員

かなり具体的な内容で要望も出たが、結果的にはうまく修正してまとめている。AED のことなど、かなり具体的なことも出てきたので。一貫して安全安心のことでいろんな意見をいただいた。答申案では、5 ページの 4 項目にまとめられている。

パブリックコメントと市民説明会において、若い人の意見が聞ける仕掛けが欲しかった。性別も年齢もわからないが、内容的にはこれから富山市で暮らしていこうとしている若者の意見がもっと取り込めるようなことがこれからの具体策には必要。

委員

いい形で反映されている。山田と細入について、富山市と合併することによってより衰退していくようであれば困る。全国には合併しないで良かったと言っているところはたくさんある。都市・環境部会の 84 ページ、中山間地域の振興というのがあり、農業の活性化と自然体験が挙げられている。活性化を進めるソフト事業をここに加えて欲しい。

富山市は職場が多くて山の方からも通勤できる。本当の過疎地でやっている農家民宿などはあまりぴんとこない。地元の人は早くからサラリーマン化している。公民館を交流拠点に活用するなど、そのような方向で交流と書き加えてはどうか。そのままというならそれでもよい。

部会長

団子の部分の案が具体的にない。地区センターにもう少し人を配置するとか、企画する人材がいなければ、総務省は人材を派遣するといっている。これを活用して、地域の人と一緒に考えてほしい。団子がだんだん小さくなってきている。交流も含めて、中山間地だけ言ってもダメ。中山間地の中で団子になる部分、わかりやすいのは地区センターだが、富山市と合併したおかげで若い人が来てくれてよくなったとなって欲しい。

住民については書いてあるが、いわゆる企業市民の役割が明確に書いていない。企業市民は企業にある程度の目標を与えて富山市政に協力していたということが大事。企業が果たす役割は大きい。書いていなければ考えて欲しい。

事務局

団子については、現在、立地適正化計画を策定中であり、団子の部分をエリアごとに分析し計画を立てている。立地誘導のための様々な支援についても検討している。

国からの派遣については、国と連携しながら研究したい。

企業市民の役割については、123 ページの「市民に期待する役割」で「事業者は」と書かれている部分があるが、もう少しメリハリをつけたい。133 ページの協働連携のところで少し記載している。見せ方の面で検討しなくてはいけないかと。

部会長

企業は地域の行事などに参加している。団子と言っているのは地区センターのこと。住民の意見を聞くところがない。旧行政センター単位で競わせて、吸い上げる仕組みが必要。企業に対しては、地域活動に協力してもらいたいと書いてほしい。企業は協力するのが当たり前だとまでは書けないが。特に消防団、住民とともにさまざまな協力が必要である。

事務局

例えば、チーム富山市という取組があり、中小企業の方などが参加している。企業がコミュニティに溶け込んで役割を担っているものがある。

委員

国の地方創生の指針には、新たな地域運営組織の設置が書き込んであるが、今でも旧自治会しかないようなところがある。女性も若い人も参加するような新たな地域運営組織が必要。このような点もチェックしていただきたい。

部会長

団子の強化が重要である。ないからさびれていく。

委員

企業の参加については、133 ページの①に総論として書いてある。ここを強調して、輪郭をはっきりするとか、市民に期待する役割で、市民とは人だけではなく企業も含めることを書き加えることで整理できるのではないか。

委員

最近、内閣府が企業型の小規模保育所といい、富山市内でも始まっている。子育てと働き方の両立、ワークライフバランス、防災面でも、企業の役割が考えられる。各論のところで書いてもよい。

答申案 4 ページの③出生率の改善ではなく、向上ではないか。出生数を増加させると

いうのは、上から目線なので、表現について考えて欲しい。「希望出生率の実現に向けて」など。

委員

企業市民に関する記載を入れるのであれば 7 ページに加えてもいいかと。

委員

観光や交流において、企業の従来の金銭的な関わりについては考えられるが、企業が持っている駐車場などの物的資源、従業員など人の資源などを活用する企業の手助けが必要である。従業員も祭りやイベントに積極的に参加することが観光交流のまちづくりの原点となる。物的資源、人的資源、お金の面の資源、3 つの側面から社会貢献活動があれば助かるのではないか。

団子と串、団子の拠点の充実の強化は重要だが、団子間の連携をどうするか。団子同士の交流が活性化しないと富山市全体の活性化にもつながらない。どこかに団子同士の連携の話を触れていただけないか。

部会長

富山市で統括しているから、連携は当然かもしれないが、もし書いていなければ、新たに項目を設けて書くというよりも、現行の文章に肉付け等で加えれば十分である。

委員

基本的にはこれでよい。答申案に評価が高いとあるが、日本のトップランナーとして未来を見据えるということがよい。正社員率が日本一などのデータがたくさんある。周りの中山間地もうまく引っ張りながら、未来を見据える雰囲気が冒頭にあるとよい。

部会長

2 ページの「コンパクトなまちづくりを推進し、全国のモデルとなる」とあるが、モデルではなくて、さらに進化・改善させるなど、正解はないが、実績を踏まえて改革改善をしていきたい、などの表現が考えられる。

事務局

本日の意見をもとに、答申案を修正してもらい、次回 11/28 全体会議で検討したい。

以上